

# ぱぴるす

## プレゼントをもらえるのは 1年間に良い子だった子どもだけ サンタさんの良い子名簿にのってるかしら？

今年も師走に入り、何かと気ぜわしいこの頃ですが、「日本のクリスマス」についての考察です。

日本のクリスマスは、フランシスコ・ザビエルが1549年にキリスト教を伝えてから3年後の1552年に、後任の宣教師コメス・デ・トルレスらが周防の国山口（山口県山口市）で日本人信徒を招いて行った降誕祭のミサが最初で、その後豊臣秀吉や徳川幕府の度重なるキリスト教禁教令のため、公式の記録はありませんが、明治維新後、新政府が1873年にキリスト教禁制を廃止するまでのおよそ260年間にわたり信仰を守り続けた「隠れクリシタン」たちが、クリスマス・ミサを行ってきたと伝えられています。

（注1）

キリスト教禁制廃止後の1900年に、明治屋が東京・銀座に店を出したところから、クリスマスを「商機」としてとらえ、本来の「1年で一番大切な宗教行事」というよりは、季節を彩る年中行事として日本国内に定着し、大正時代には児童・少女向け雑誌の12月号に「クリスマス」の話が載りました。

年号が「昭和」に変わると、休日法改正により大正天皇祭（12月25日）は休日となったこともあり、「クリスマス」は広く普及し、子どもたちはサンタクロースを、大人は銀座から渋谷、浅草などの繁華街に繰り出し、カフェや喫茶店のクリスマス料理を楽しんだといえます。

太平洋戦争後の1948年、新たに「国民の祝日に関する法律」が施行されると「大正天皇祭」は無くなりますが、「クリスマス」はすっかり定着し、クリスマスツリー、クリスマスケーキ、クリスマスバーゲンセール、クリスマスプレゼントなど、キリスト教徒であるなしにかかわらず、家族で楽しめるにぎやかな祝祭の場となっていきます。

もちろんキリスト教を信仰し、クリスマスを静かに教会で祝う方も大勢いらっしゃいますが、日本に入ってきた宗教の行事でこんなに国民に馴染んだ行事はないかと思えます。



ともあれ、「クリスマス」を祝えるのは平和の証し。

「メリー・クリスマス&ハッピー・ニューイヤー」  
良いお年を！！

クリスマスでなくともお奨めの作品ですが、クリスマスに読んだらもっと楽しい「クリスマス・キャロル」(93ク)(C・ディケンズ/著、何回か映画化もされてます)、おとなも楽しい絵本「さむがりやのサンタ」(Eサ)(R・ブリッグス/著)はいかがでしょうか？



# 新着図書(一般書)

## お役立ち本

- 『編み地を楽しむリストウォーマー』 林 ことみ/著 文化学園文化出版局
- 『カレンダーおもしろ活用術』 日本能率協会マネジメントセンター
- 『乾物と保存食材事典』 星名 桂治/監修 誠文堂新光社
- 『Xmasアドベントブック』 本庄 ひさ子/作 世界文化社
- 『最高の工事写真の撮り方』 中野 裕/写真・著 エクスナレッジ
- 『事例でよくわかるアンケート調査と統計解析』 菅 民郎/著 ナツメ社
- 『十二支の年賀状デザイン750』 中村 浩訳/編著 日貿出版社
- 『スノーボードはじめてBOOK』 実業之日本社
- 『生活相談員その役割と仕事力』 梅沢 佳裕/著 雲母書房
- 『ソーラークッカーを作ろう』 佐藤 輝/著 パワー社
- 『たこ焼き器120%使いこなしレシピ』 片山 ちえ/(著) 主婦の友社
- 『チャイルドマインダー活用book』 NCMA, Japan/監修 東京書店
- 『洞爺湖有珠山ジオパークガイドブック』 北海道新聞社
- 『B級ご当地グルメで500億円の町おこし』 渡邊 英彦/著 朝日新聞出版
- 『文化系のためのヒップホップ入門』 長谷川 町蔵/著 アルテスパブリッシング

## 海外文学

- 『息のブランコ』 ヘルタ・ミュラー/著 三修社
- 『花間集』 趙 崇祚/編 平凡社
- 『景福宮の秘密コード』 上下巻 イ ジョンミョン/著 河出書房新社
- 『心理学的にありえない』 上下巻 アダム・ファウアー/著 文芸春秋
- 『14歳のアウシュヴィッツ』 アナ・ノヴァク/著 白水社
- 『パット・ビューティフル』 ジェフ・ダイヤー/著 新潮社
- 『虫けらの群霊』 パウル・シェーアバルト/著 未知谷

## 日本文学

- 『あやしい探検隊北海道物乞い旅』 椎名 誠/著 角川書店
- 『安全な妄想』 長嶋 有/著 平凡社
- 『かわいそうだね?』 綿矢 りさ/著 文芸春秋
- 『狩場(カリヴァ)最悪の航海記』 山口 雅也/著 文芸春秋
- 『再会と別離』 四方田 犬彦/著 新潮社
- 『シューメーカーの足音』 本城 雅人/著 幻冬舎
- 『小説を、映画を、鉄道が走る』 川本 三郎/著 集英社
- 『真友』 鍋木 蓮/著 講談社
- 『人生教習所』 垣根 涼介/著 中央公論新社
- 『誰かが足りない』 宮下 奈都/著 双葉社
- 『どちらとも言えません』 奥田 英朗/著 文芸春秋
- 『ハロワ』 久保寺 健彦/著 集英社
- 『ボトムレス』 拓未 司/著 NHK出版
- 『要介護探偵の事件簿』 中山 七里/著 宝島社
- 『隣人』 喜多 由布子/著 講談社

## 歴史・時代小説

- 『家康の子』 植松 三十里/著 中央公論新社
- 『建礼門院徳子』 鳥越 碧/著 講談社
- 『真田三代』 上下巻 火坂 雅志/著 NHK出版
- 『麝香ねずみ』 指方 恭一郎/著 文芸春秋
- 『春嵐立つ』 芝村 涼也/著 双葉社
- 『夢の浮橋』 蜂谷 涼/著 文芸春秋
- 『四十八人目の忠臣』 諸田 玲子/著 毎日新聞社



『オーロラ』  
赤祖父 俊一/監修  
誠文堂新光社

副題『オーロラに会いに行く』が表すとおり、オーロラウォッチングに必見の一冊。最適な場所や時間、服装まで網羅されている資料です。



『めがねを買いに』  
藤 裕美/著  
WAVE出版

有名なコピー『めがねは顔の一部です』のとおり、今やファッションの一部となっためがね。その選び方・おしゃれなかけ方が紹介されています。



『じゃがいもびいき』  
戸塚 真弓/著  
中央公論新社

北海道の代表的な食材じゃがいも。メニューにまつわるお話を読みながら、おいしいじゃがいも料理を作ってみませんか。



『闇の喇叭』  
有栖川 有栖/著  
講談社

探偵行為が禁じられた日本で、探偵を両親に持つ主人公 空閑純(そらしずじゅん)が謎に挑む。

# 本の情報・話題の本

## 図書館に住む本の話

### 今回のテーマ：編みものの本

編みものの本が書店を賑わすようになりました。冬の間の実益を兼ねた趣味『編みもの』は、今年も人気のある資料です。

輪の形になったマフラー・スヌードが編める『今編みたいスヌード&ネックウォーマー』のような流行のものから、初心者向け『かぎ針あみと棒針あみの基本』まで図書館ではたくさんの資料を用意してお待ちしております。

\*編みものの本は実用書棚にあり、背中に緑色の丸シールが貼ってあります。



### 予約本ランキング



「マスカレードホテル」  
東野圭吾(131)

- 2 『謎解きはディナーのあとで』 東川篤哉(115)
- 『真夏の方程式』 東野圭吾(115)
- 4 『人生がときめく片づけの魔法』 近藤麻理恵(78)
- 5 『境遇』 湊かなえ(75)
- \* 『KAGEROU』 斉藤智裕(71)
- \* 『おまえさん上・下』 宮部みゆき(68)
- \* 『麒麟の翼』 東野圭吾(68)
- \* 『夜行観覧車』 湊かなえ(58)

11月22日現在

## 寄贈いただきました

### トヨタ自動車北海道株式会社様より



『コレクション戦争と文学4』  
『北海道の歴史』  
『自動車年鑑 2010-2011年版』  
一般・児童・参考書  
計146冊

### 苫小牧市民薬局株式会社様より



『完全図解医療のしくみ』  
『薬剤師を味方につければ薬はこわくない』  
『そのとき薬剤師は医療チームの要になった』  
一般書 計63冊

初対面の方に、図書館で働いていると話すと、「いいですねえ、いっぱい本が読めて」といわれることが多いのですが、図書館職員だからといって好きな本ばかりを選んだり、購入できるわけではありません。

日々出版される膨大な本の中から、総記から文学まで各分野ごとに本の内容について情報を集め、限られた図書予算にとらめっこしながら資料の収集をしています。新刊本が届き、書架に並ぶとすぐに予約まちになるベストセラーもあれば、お客様に「こんな本もあったんだ！」と感心していただく選書冥利につきる？本もあります。

前置きがながくなりました。「読書日記」はつけていませんが、ずっと記憶に残っている本の一冊に「モロッコ皮の本」(柝折久美子著 筑摩書房 1981)があります。

著者は筑摩書房で編集に携わり、名だたる文豪を担当しながら造本・装丁も学ぶうちにそれが本業になり、更なる技術を得ようと、1972年にベルギー国立高等建築視覚芸術学校ルリユール科に5ヶ月間実習生として留学し、洋製本の原型である手作りの皮装丁を学びます。

この本は、海外旅行も留学も今ほどポピュラーな時代ではないときの体験を綴ったもので、

装丁を学んだ先生やクラスメートとのやりとりを含め、著者のまわりの人たちとの交流の様子が静かに、でも生き生きと描かれています。彼女の学んだ「ルリユール」とは現代の機械による大量生産の製本とは違い、依頼主から注文を受けて一点一点装丁する(オーダーメイド)ため高い技術力が必要で、本来は短期間でマスターできるものではないそうです。

しかし、驚異的な集中力と努力で先生に「3ヶ月の勉強でクミコは3年生の実力がある」との評価を得て帰国し装丁作品の個展を開き、1981年国際製本家協会からマイスターの認定を受け正会員となりました。現在はエッセイストとしても活躍中です。

人間、本当にやりたいことに向かってなら、「いくつ」からでも頑張れるのだと感じた本です。



『モロッコ革の本』  
柝折 久美子 / 著  
筑摩書房

図書館員の読書日記  
今回はINJの日記です

# こどもの本のページ



「あなたのことが  
だいすき」  
ヒド・ファン・ヘネヒテンノ  
さく・え  
フレーベル館 Fア



「わらって! リッキ」  
ヒド・ファン・ヘネヒテンノ  
さく・え  
フレーベル館 Fリ



「ゆきがたくさん  
つもったら」  
ルク・デュポンノさく,  
ヒド・ファン・ヘネヒテンノ  
え  
フレーベル館 Fコ

## ヒド・ファン・ヘネヒテンさん



今月の  
イチオシ  
作家

1957年、ベルギーに生まれる。高校卒業後、印刷会社に勤めながら美術学校で絵やグラフィックアートなどを学び、1988年、「リッキ」を主人公にした絵本がハッセル市国際絵本賞を受賞。その後も次々と絵本を執筆し、世界的な人気作家となりました。彼の絵本は、現在世界30カ国以上で発売され愛されています。



「だっこのえほん」  
ヒド・ファン・ヘネヒテンノ  
さく・え  
フレーベル館 Fタ



「ゆきだるまの  
スノーぼうや」  
ヒド・ファン・ヘネヒテンノ  
さく・え  
フレーベル館 Fコ



「みんなおやすみ」  
ヒド・ファン・ヘネヒテンノ  
さく・え  
フレーベル館 Fミ

# あたらしい本

10～11月に届いた本から  
ピックアップ



## 「日本全国鉄道めいろ 1」 29ニ-1

恵 知仁 / 作  
汐文社

全国の鉄道路線を使っためいろゲームの本。さまざまな指令のもと、鉄道やバスなどを使った路線上のルートを探す。1は、北海道から九州・沖縄まで、7つの地方の名所を巡る。



## 「「はやぶさ」がとどけたタイムカプセル」 53ハ

山下 美樹 / 文, 的川 泰宣 / 監修  
文溪堂

7年にわたった60億キロメートルの旅を終えて地球に帰ってきた「はやぶさ」は、小惑星イトカワの“タイムカプセル”を届けてくれた…。小惑星探査機「はやぶさ」の活躍を描いた物語。



## 「ニコとねずみのすてきなせかい」 Eニ マンフレート・マイ / 作, ヨッヘン・シュ トゥアマン / 絵, 斎藤 洋 / 訳 フレーベル館

力は強いが、身のまわりのことしか知らなかったネコと、小さくて弱いが、広い世の中を知っているネズミ。2匹が出会ったとき、新たな“せかい”が幕を開け…。



## 「レンタルロボット」 913レ

滝井 幸代 / 作, 三木 謙次 / 絵  
学研教育出版

学校の帰り道、「ロボットかします」という店を見つけた健太は、自分のこづかいで弟ロボットをレンタルする。弟が欲しいという願いが叶って楽しい日々が続いたが、兄として我慢しなければならないことも出てきて…。



### よみきかせ会

会場 おはなしコーナー  
定員 40名

#### 苦小牧子どもの本の会 (第1・第3日曜日)

12月4日・1月15日  
午後3時～3時30分  
12月18日は、午後2時～3時まで2階講堂で行います

#### にじのはし (第2土曜日)

12月10日・1月14日  
午後11時～11時30分  
(第4土曜日)  
12月24日・1月28日  
午前11時～11時30分  
午後2時～2時30分

### ストーリーテリング おはなし会

会場 おはなしコーナー  
定員 40名

#### おはなしオルゴール (第3土曜日)

12月17日・1月21日  
午後2時～2時30分

#### かみしばい 紙芝居

会場 サンガーデン  
定員 40名

#### かみしばいおじさん (第2土曜日)

12月10日・1月14日  
午後2時～2時30分

### ていきてき ぎょうじ 定期的な行事の おしらせ

#### めいさく じょうえいかい 名作アニメビデオ上映会

会場 2階講堂  
定員 70名

飯野和好(いいのかずよし)さんや五味太郎(ごみたろう)さん作品などのビデオを上映します。

(第2・第4日曜日)

12月11日・12月25日  
1月8日・1月22日  
午後2時30分～3時

## 郷土・参考資料室からのお知らせ

# 寄贈資料のご紹介

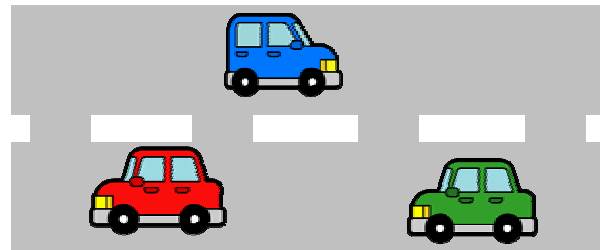
今回はトヨタ自動車北海道株式会社と苫小牧民報社よりいただいた資料をご紹介します。  
これらの資料は、全て2階郷土・参考資料室で見ることができます。

トヨタ自動車北海道(株)より、図書資料をいただきました。



自動車の百科事典  
(537.0/シ)  
自動車技術会 / 編  
丸善 / 刊  
2010.01

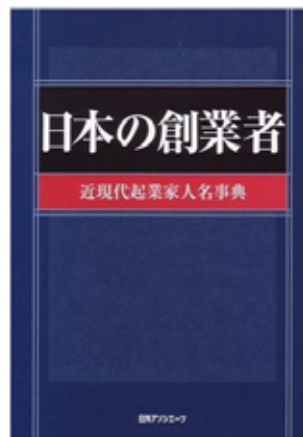
トヨタ自動車の寄贈にふさわしいタイトル。章立て構成で、その章のストーリーに沿って用語を解説しているため、その周辺の用語や技術も理解を深めることができる。



この他にも以下の資料を寄贈していただきました。

日本の創業者  
(335.1/ニ)  
近現代起業家人名事典  
日外アソシエーツ / 編・刊  
2010.03

その名のとおり、日本の代表的な800社余りの企業の創業者、865人が収載された人物事典。基本事項(生没年、出生地、学歴など)のみではなく、創業エピソードも盛り込み興味深い。巻末に企業名、人名索引付き。



アフリカを知る事典	240/ア
英和ブランド名辞典	675.1/I
現代工業英語辞典	507.7/ケ
現代人口辞典	334.0/ケ
自動車年鑑 2010-2011年版	537.0/シ/2010
全国学校総覧 2011年版	370.3/セ/2011
ユダヤ人名事典	280.3/I
ここで釣れる 北海道の港全ガイド	H787.1/コ
世界を変えた化学反応 鈴木章とノーベル賞	H434/セ

苫小牧民報社より、苫小牧民報デジタル版をいただきました。

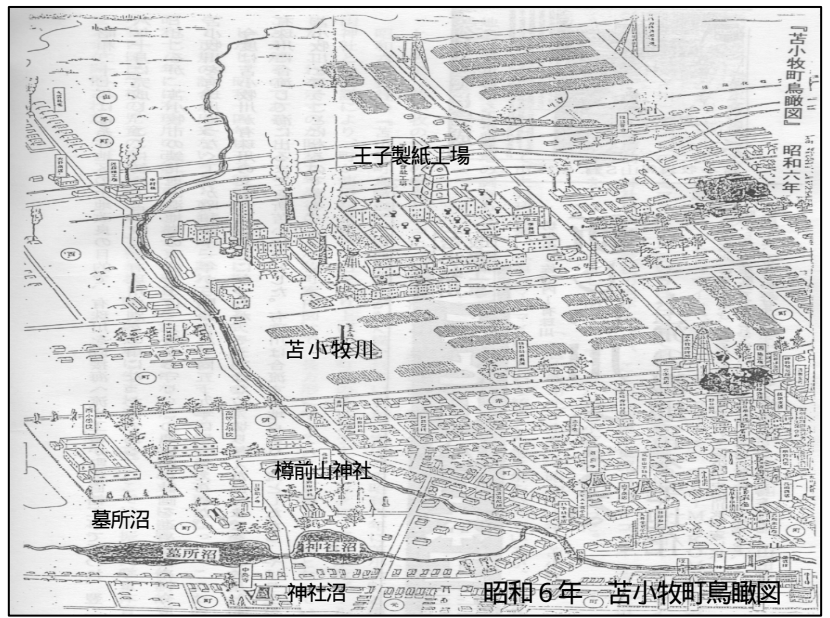
平成23(2011)年11月15日(火)に参考資料室で贈呈式が行われ、当館も資料提供に協力した「苫小牧民報縮刷版DVD」(全91巻)が、苫小牧民報社より寄贈されました。収録期間は昭和25(1950)年1月～平成22(2010)年12月までです(欠あり)。閲覧には当資料室のパソコンをご利用いただけますので、職員にお声かけください。



# ふるさとの一片(50)

～郷土資料コーナーで見つけた～

苦小牧地名の起源となった  
今はなき「神社沼」と「墓所沼」



## 沼の「マコマイ」

苦小牧市立中央図書館の二階には郷土・参考資料室があります。「ここでは利用者の方からいろいろな質問を受けるレファレンス業務があります。なかでも苦小牧という地名の由来はよく尋ねられる質問のひとつです。

苦小牧市のホームページでは「以前苦小牧川が流れる一帯を、当時の河川名であったマコマイ(アイヌ語で「山奥に入っていく川」と呼んでいた。沼のあった旧樽前山神社付近一帯はアイヌ語で沼の意味がある「ト」の字をつけて「ト・マコマイ」と呼ばれるようになり、今日の苦小牧になった。」と説明しています。アイヌ語の解釈をめぐって諸説ふんぶんあったのですが、現在はこの説を公式見解としています。

これは苦小牧市史編さん室の扇谷昌康編さん員が機関誌「苦小牧市史編さん」3(昭和四十六年(一九七一年))に苦小牧の地名解は「沼のマコマイ川」であると発表し、同誌をアイヌ語地名の権威 山田秀三氏に送ります。ちょうど道庁から依頼された「北海道の川の名・増補版」を執筆中だった山田氏は、すぐに市史編さん室を訪れ、再確認後、同書にそれらのいきさつも

含め掲載しました。

その後刊行された「北海道の地名」で山田氏は「昔は今の国道の北側は樽前神社の辺からずっと西にかけて、湿地と沼が並んでいた。ある時代にはその水が海に直入していた処もあり、また神社のそばで苦小牧川に入ってもいたが、今は全部埋まったという」と土地の古者の証言を記載しました。このように当時は「ト」に対応するほどの大きな沼が存在していたのです。同書には「松浦氏東蝦夷日記に「トウマコマイ。上に沼有。依つて号く」と書かれたのはその姿であろう」とも記されています。松浦氏とはもちろん江戸時代の探検家で北海道の名付け親、松浦武四郎のことです。その「東西蝦夷日記」の東日誌に苦小牧が載っています。東日誌の初編は慶応元年(一八六五)なので、そのころの苦小牧の地形を描写していることになりました。「依つて号く」は「依つて名づける」と解せましよう。

## 神社沼と墓所沼

昭和六年(一九三一年)の「苦小牧町鳥瞰図」(上図)には二つの沼が載っています。各々、神社沼、墓所沼と呼ばれ、昭和九年の「苦小牧町案内図」では沼池、プール・スケート場、昭和

十二年の「苦小牧案内図」ではスケート場、プールへと変わっていきます。昭和六年に苦小牧町と樽前山神社との協議により、町が使用料を払って沼を借り上げて冬はスケートリンクに、夏は水泳プールにしました。

アイヌ語地名が自然の地形、特に川と密接に関わっていることは、山田氏がアイヌ語地名を聞くだけで、その土地がどのような場所なのか頭のなかでイメージできたことからも頷けます。しかし、現在はかつてあった沼がなくなり、「ト・マコマイ」をイメージすることはできません。そのことについて扇谷氏は「地名の由来を調べるのに困難を感じることは、開発による自然の変容である」として「苦小牧市のように開発が進むと河や沼が消滅したり、市街地化すると考証に困難を伴つのである」と述べています。

苦小牧地名の起源ともなった二つの沼は昭和十年代後半には埋め立てられ、その姿を消します。(大泉)

## 引用・参考資料

「古文書に見る苦小牧の地名の変遷」苦小牧市史資料集第一号 一九九六 堀江敏夫  
「トマコマイの語源について」機関誌苦小牧市史編さん 3 一九七一 扇谷昌康  
「北海道の地名」一九八四 山田秀三

# 行事のお知らせ

## 赤ちゃんとお楽しみ はじめての絵本のひろば

平成24年2月開催分  
 内容 赤ちゃんとお絵本の出会いを目的とし、赤ちゃんとお絵本の接し方の実践と指導、絵本の紹介、読書相談などを行う  
 日時 平成24年2月10日(金)  
 10:30~11:30  
 会場 中央図書館2階 講堂  
 定員 15組(キャンセル待ち3組まで)  
 対象 1歳児とその保護者  
 申込 1月25日(水)~31日(火)開館時間内  
 中央図書館カウンター または  
 電話 35-0511  
 定員を超えた場合は2月1日(水)に抽選  
 (はじめての方優先)  
 連絡方法 申込みしていただいた全ての方へ  
 2月1日(水)に電話で連絡いたします。

## 苫小牧地区小・中学校 学級新聞コンクール入賞作品展

第50回苫小牧地区中学校及び第37回苫小牧地区小学校学級新聞コンクールの入賞作品を展示いたします。  
 期間 ~12月11日(日)  
 会場 中央図書館1階 カウンター前

## 平成23年度 小・中学生俳句入賞作品展

第63回苫小牧文化祭協賛俳句大会での小中学生の俳句入賞作品を色紙に清書し、展示いたします。  
 (苫小牧俳句協会との共催イベントです)  
 期間 12月13日(火)~12月30日(金)  
 会場 中央図書館1階 カウンター前

## 苫小牧川柳社作品展

第63回苫小牧文化祭川柳大会での入賞作品と川柳サークル苫小牧川柳社の会員の作品を展示いたします。  
 (苫小牧川柳社との共催イベントです)  
 期間 平成24年1月6日(金)~1月22日(日)  
 会場 中央図書館1階 カウンター前

寄付・寄贈ありがとうございました。(平成23年9月21日~11月20日)  
 個人 167件 3610冊 団体 54件 87冊

展示の 今後の 予定	閲覧室入口 クリスマスの本(児童) ~12月25日 日本語のリズムを体験しよう 12月27日~ 平成24年1月26日	児童コーナー 自由研究・自由工作・読書感想文 12月15日~ 平成24年1月17日 龍の本 12月23日~ 平成24年1月26日
	一般書コーナー(新刊棚) Let's have some Music ~12月25日 日本の建築 12月27日~ 平成24年1月26日	一般書コーナー(検索機構) 生き物大好き!! ~12月25日 平清盛 12月27日~ 平成24年1月26日
	エントランスホール 「苫小牧民報と苫小牧信用金庫 創業60年をこえての取り組み」 ~平成24年1月26日	

休館日の展示の公開はありません。  
 行事・催し・展示については、変更・中止になる場合がございます。

## 中央図書館カレンダー

黒塗り白字になっている日は休館日です  
 丸印がついている日は午前9時30分~午後5時開館  
 印が付いていない日は午前9時30分~午後7時開館

平成23年12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	③
④	5	6	7	8	9	⑩
⑪	12	13	14	15	16	⑰
⑱	19	20	21	22	⑳	㉑
㉒	25	26	27	28	⑳	㉓

23日 天皇誕生日  
 (開館します)

平成24年1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	⑦
⑧	⑨	10	11	12	13	⑭
⑮	16	17	18	19	20	㉑
㉒	23	24	25	26	27	㉓
㉔	30	31				

9日 成人の日(開館します)

平成24年2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	④
⑤	6	7	8	9	10	⑪
⑫	13	14	15	16	17	⑱
⑲	20	21	22	23	24	㉓
㉔	27	28				

11日 建国記念の日  
 (開館します)

12月31日~1月5日は年末年始の休館日となります。